
デッサン 第4話「携帯電話」(1)

小箱町まりあ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

デッサン 第4話「携帯電話」(1)

【Nコード】

N3521Q

【作者名】

小箱町まりあ

【あらすじ】

陶子と聖哉、すれ違つ心。

夫と美しいひと(前書き)

君の携帯電話。

夫と美しいひと

陶子は黄緑色のカエルのような色の携帯電話を聖哉からもらって持っていた。これは彼女が何処にいても捕まるように・・・という聖哉の思い入れの品であった。

そして、ここ最近、クリニツクのデイケアが退屈だと、駅ビルのルミネを見て歩くようになっていた。だいたい1人で。

この日もクリニツクのお昼が済んでルミネを見て周っていたら、クリニツクの受付嬢から電話が入って

「陶子さん、今何処ですか。」

と聞いてきたので、陶子は正直に

「今、ルミネを見て周ってて、これから200円コーヒーに行くところですよ。」

と答えるのであった。この200円コーヒーというのは、ルミネの4階にある軽食喫茶のようなもので、陶子が憩いによく行くのであった。

そして、陶子がお茶をしていると刈谷が現れて

「陶子さんですか。あつご一緒しても良いですか。」

と聞いてくるので、陶子は悪い気がせず、OKを出すのでした。実はこここのところ、こういう偶然がよくあるのだ。ただ、陶子はその事実気付かないのであった。そして、その後は刈谷と一緒にクリニツクに帰るか、聖哉から電話があつて、聖哉と聖哉の友達と刈谷とでお茶するかの2パターンであった。

夫と美しいひと（後書き）

愛されたい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3521q/>

デッサン 第4話「携帯電話」（1）

2011年1月28日10時00分発行